

# 都市熱サブグループまとめ

一ノ瀬俊明

*Toshiaki Ichinose*

独立行政法人国立環境研究所

*National Institute for Environmental Studies*

# 今年度の成果

## < 審査付 >

- Ichinose, T. (2006): Recent counteractions for urban heat island in regional autonomies in Japan, Urban Dimensions of Environmental Change: Science, Exposures, Policies and Technologies, Science Press

## < 著書 >

- 一ノ瀬俊明(2006):アジアの都市におけるヒートアイランド,「アジア環境白書2006/07」,東洋経済新報社,東京

## < 口頭発表 >

- Toshiaki Ichinose, Kumi Kataoka, 2006, Distributions and trends of total hours exposed to high temperature in Japan,IGU( International Geographical Union ) 2006 Brisbane Conference, Abstracts(CD-ROM). (Brisbane , July)

# 今後の課題

## データ収集

- バンコク1950年代以前のデータ
- Jakartaの月平均データ
- Manilaのデータ

## 地下熱等のデータと比較する際の議論(片岡の発表)

- データの連続性に関する検討
- 都市の範囲に関する検討
- データ収集

！ 社会経済データとの比較

！ データの整理, シェア方法

# 論点 (グループ横断)

データの空間代表性 (気温、地中温度)

データの時間解像度 (気温: 時間、地中温度: 深さ)  
月平均値、年平均値で十分

都市・社会班からのデータを用いて数値計算する場合  
求められるのは個別の対象日・対象時刻の  
地表面温度、気温、地中温度  
(月・年平均化は困難: GCMの事例)